

区分	事業の種類	事業の内容	期間、場所 (実績)
誌面 広告	11 PTA広報誌	「北九P協新聞」(PTA広報誌)に啓発記事を掲載し、小中学校を通じて、家庭に配布。	1月11日～
看板等 屋外 広告物	12 期日前投票周知看板	区役所、出張所に期日前投票用周知看板を設置。 八幡西区では、八幡中央高校書道部の学生が揮毫した期日前投票案内看板を設置。 	1月22日～ 7区役所 9出張所
その他	13 高校生の期日前投票立会人	若松高校・若松商業高校・高陵高校の生徒が、期日前投票所の立会人を務めた。 	1月23日～ (土日のみ) 若松区役所 島郷出張所

2 幅広い世代を対象にした主な事業

区分	事業の種類	事業の内容	期間、場所 (実績)
イベント	1 ハローキティ PR開始宣言	市議選PR大使に任命されたハローキティが、幼稚園児と一緒にPR開始を宣言。同時に、特設WEBサイトの公開も開始。 	12月10日 水環境館
WEB の 活 用	2 市ホームページ	市選管ホームページに投開票速報を掲載。 また、投票所における混雑緩和のため、期日前投票所別の投票者数などを棒グラフにまとめ、適宜更新した。	12月10日 ～1月31日
	3 特設WEBサイト	ハローキティをメインデザインとした特設WEBサイトを作成し、啓発イベント情報や投票方法などをわかりやすく発信。	12月10日 ～1月31日
	4 メールマガジン	市広報室の「メールマガジン」を希望している人に対し、選挙のお知らせの電子メールを送信。	適宜
テレビCM や 館内放送等	5 テレビ・ラジオ	民放テレビ5社、民放ラジオ5社において投票期日等を告知するCMを放送。	1月22日 ～1月31日
	6 市政テレビ 市政ラジオ	市政テレビ・ラジオ番組の枠内を利用して投票日等の周知。	1月17日、 1月24日
	7 大型ビジョン	JR小倉駅、リバーウォーク、小倉駅前グリーンライザ、若松競艇場の大型映像装置を利用してCMを放送。	1月23日 ～1月31日
	8 区役所待合モニター	区役所待合モニターにて、テレビCM映像を放映。 	1月4日 ～1月31日
	9 本庁舎モニター	本庁舎エレベーター前モニターにテレビCM映像を放映。	1月15日 ～1月31日
	10 庁舎内アナウンス	市役所、区役所でハローキティを起用したラジオCMの放送や、北九州市立高等学校放送部の生徒が収録した選挙啓発アナウンスを放送。	1月4日 ～1月29日

区分	事業の種類	事業の内容	期間、場所 (実績)
交通 広告	11 市営バス車内	ハローキティバス2台車内ジャック広告等、市営バス車内にて横型の啓発ポスターを掲出。 	1月1日 ～1月31日
	12 シティスケープ	市内バス停シティスケープにて広告を掲出。 	1月18日 ～1月31日 市内バス停 27ヶ所程度
	13 JRステップ広告	小倉駅、黒崎駅、門司駅、戸畑駅構内の階段に広告を掲出。	1月1日 ～1月31日 小倉駅 1月18日 ～1月31日 黒崎駅、門司駅 戸畑駅
	14 JR駅貼りポスター	市内主要駅にてポスターを掲出。	1月25日 ～1月31日 市内16駅
	15 モノレール駅貼りポスター	モノレール駅構内にて啓発ポスターを掲出。	11月20日 ～1月31日 全13駅
	16 モノレール駅 放送	モノレール駅構内で選挙のお知らせを放送。	1月24日 ～1月30日 全13駅
誌面 広告	17 市政だより	市政だより（1月15日号）に選挙に関する特集記事を掲載。	1月11日～
	18 雑誌	フリーペーパー（「ナッセ北九州」、「サンデー北九州」、「リビング北九州」等）に、記事や広告を掲載。	12月25日～
	19 新聞広告	期日前投票初日に、主要紙朝刊（4紙）に広告を掲載。	1月23日 西日本 朝日 読売 毎日

区分	事業の種類	事業の内容	期間、場所 (実績)
看板等屋外広告物	20 看板	市役所、区役所、出張所に建植看板を設置。 	12月24日～ 本庁舎前 7区役所 9出張所
	21 懸垂幕、横断幕	区役所、若松競艇に横断幕や懸垂幕を掲出。  	12月25日～ 7区役所
	22 幟旗	区役所に幟旗を設置。	12月25日～ (225枚)
	23 車体幕	消防車などの大型公用車両の前面に車体幕を掲出。	1月18日～ (388枚配布)
その他	24 ポスター	「ハローキティ」をイメージキャラクターとした啓発ポスターを掲出。 	11月27日～ 公共施設、 デパート、 スーパー、 金融機関、 JR駅、 モノレール駅、 バス車内、 高校、 大学等 約1,300ヶ所 約3,200枚掲出
	25 区役所窓口での啓発	区役所窓口で啓発物品（ウェットティッシュ）を置き、来庁者に投票を呼びかけた。	1月4日～ (約8,000個)
	26 ゴミ収集車、公用車による放送	ゴミ収集車及び公用車が車両放送をしながら市内を巡回。	1月18日～ (環境センター 242個)

区分	事業の種類	事業の内容	期間、場所 (実績)
その他	27 商業施設 館内放送	市内商業施設の館内放送にて選挙を周知。	1月23日～ (期日前投票所 3商業施設)
	28 フロアシール	<p>期日前投票所内において、身体的距離を保つよう啓発するフロアシールを貼付。</p>  	1月23日～ 7区役所
	29 飲食店での啓発	<p>市内飲食店に選挙期日等を記載した三角POP・ポスターを配布。</p> 	1月5日～ (イオンモール八幡東、 リバーウォークほか)

主な常時啓発事業

1 明るい選挙啓発事業	
(1) 広報誌「明るい選挙」の発行	明るい選挙推進運動の活動内容紹介のためリーフレットを発行
(2) 祭り等における啓発	各区の祭り等に区明推協関係者が参加し、明るい選挙の推進を呼びかけ
(3) 啓発看板	寄附禁止（3ない運動）の標語を記載した看板の掲出
(4) ホームページ	ホームページで明るい選挙を呼びかけるとともに、明るい選挙等に関するQ & Aを掲載
(5) まちの政治をみつめよう学級の設置	身の回りの生活と政治との関わりをテーマに話し合い学習を行う「まちの政治をみつめよう学級」の設置、育成
(6) 学級リーダー研修会	学級のリーダーが一同に会し、社会問題や学級運営上の課題についての話し合い
(7) 学級生による街頭啓発等活動	選挙執行に際して、各区において街頭啓発に参加、また各区期日前投票の投票立会人として従事
(8) 指導者及び助言者養成研修事業	（公財）明るい選挙推進協会や県選管が主催する研修会に参加
2 主権者教育等啓発事業	
(1) 中学校3年生向け副読本	民主政治と政治参加を学習する際に活用してもらうため、市内の中学校に配布
(2) 投票箱、投票用紙記載台の貸出	生徒会役員選挙時などに投票箱、投票用紙記載台を貸出
(3) 出前講座	高校等において出前講座や模擬選挙を実施 市立大学の開講科目内にて出前講義を実施
(4) 明るい選挙啓発ポスターコンクール	市内小・中・高校生を対象に明るい選挙をテーマとするポスターコンクールを実施、入賞作品の展示会を開催
(5) 新有権者へのお知らせ	新有権者として新たに選挙人名簿に登録された人にお知らせはがき等で投票参加を呼びかけ
(6) 選挙を考える大学生のつどい	市内4年制の大学生に対する政治意識の向上を図るための意見交換、大学祭での選挙啓発を企画実施
(7) PTAとの連携	研修会等の場で選挙に関する講座等を行う（「会長・副会長・役員研修会」）
(8) 親子向け模擬投票イベント	子育て世代を対象とした模擬投票イベントを実施

第25回参議院議員通常選挙全国意識調査 (R2.3) [抜粋]

今回の参院選で棄権した人 (n=489) の棄権理由を前回調査の結果と対比して見てみる (表3)。

今回最も多く選択されたのは前回と同じく、「選挙にあまり関心がなかったから」(今回 30.9%、前回 27.1%)であった。次いで「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」(23.7%)、「適当な候補者も政党もなかったから」(21.7%)、「仕事があったから」(20.4%)となっている。

順位に違いはあるものの、1~4位は前回と同じ選択肢となっている。

表3 棄権理由(複数回答)

	第25回(N=489)	第24回(N=532)
仕事があったから	④20.4	②25.0
重要な用事(仕事を除く)があったから	14.5	11.8
病気だったから	-	6.6
体調がすぐれなかったから	17.0	12.2
投票所が遠かったから	3.9	5.1
面倒だったから	-	14.8
選挙にあまり関心がなかったから	①30.9	①27.1
政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	②23.7	③24.6
適当な候補者も政党もなかったから	③21.7	④22.9
私一人が投票してもしなくても同じだから	13.9	12.8
自分のように政治のことがわからない者は投票しない方がいいと思ったから	7.6	6.8
選挙によって政治はよくなると思ったから	17.8	15.0
マスコミ(メディア)の当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	3.3	3.4
今の政治を変える必要がないと思ったから	1.0	0.9
今住んでいる所に選挙権がないから	2.0	4.9
天候が悪かったから(暑すぎた、雨だったなど)	1.4	1.3
その他	9.0	6.8
わからない	1.2	0.6

次に上記の4つの選択肢について各年代がどの程度選択しているのかをしてみる(図3-1)。

上位4つの中で最も選択率が高かった「選挙にあまり関心がなかったから」を見ると、18-20歳代の45.7%が最多で、次いで30-40歳代の41.1%となっている。18-20歳代、30-40歳代は、4つの選択肢の中で最も選択率が高い。

「適当な候補者も政党もなかったから」は、50-60歳代の30.3%が最多で、かつ当該年代において最も選択率が高い。